

新たな人生が始まる。新しいページが広げられたのである。これから待ち迎えるものはなんなのだろう……。

これからは夢や、希望を追いかけて行ける。そんな進行形的な人生を送ってゆきたいと思う。



宝米 理恵さん
鈴木

二十歳になつて 思うこと

私は、現在北海道の大学で勉強しています。家族と離れて生活するようになってもう二年がたとうとしています。これまでとは全く違う生活が始まりました。何もかも自分でしなくてはいけないのです。最初の一年間は緊張のしどろしどろでした。言葉もかなり違っていて友達と話をしているもいまいち解説をしてもらわなければいけないという状態でした。もちろん、日本語と英語ほど違う訳ではありませんが。そして何といつても一番不安だったのは、初めて迎える北海道の冬でした。衣服は、布団はと家族もかなり心配してくれました。部屋の中はストーブとこたつを用意しました。去

年の冬はとても雪が多かったのですが、あまり寒さを感じることなく過ごすことができました。

大学の一年間は、あつという間に過ぎてしまいました。そして二年も、もうすぐ終わろうとしています。大学四年間のうちの中頃で二十歳の誕生日を迎えました。二十歳といつても親のすねをかじって生活をしているので甘えている部分があります。

二十歳になつて何を考えたか？まず言えるのは残された学生生活を有意義に使うことです。残りの二年間の中には、教育実習や、教員採用試験があります。

私にとつては、それを突破しない限り社会人にはなれません。そして幅広い知識を身につけたと考えています。

今まで、着実に目標に向かって進んできました。これからはそれが現実となるようにがんばらなければならぬと思います。次に能動的な人生を歩もうと考えました。待っているだけでは何も来ないと思います。されるのを期待するのではなく、してあげるといふ気持ちで忘れな

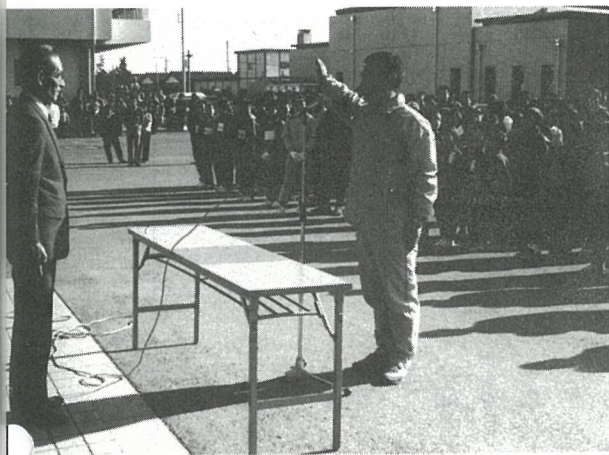
いでいたいと思っています。子どもたちに好かれるよりも、子どもたちを愛してあげることのできる人”になりたいと思います。

すがすがしい気持ちで 新春マラソン大会に参加

一月六日(日)、第十三回新春マラソン大会が行われました。

当日は絶好のマラソン日和。町内から八〇〇名の子供と大人が参加、大会の目的である健全な精神と健康の増進を図りました。

午前十時、小学一年生がスタートしたのに続いて順次発走。特に、親子でのマラソンには二歳の幼児も参加し完走しました。新しい年を迎え、すがすがしい気持ちで走っただけに、終わった後のプレゼントにどの子もにっこり、顔をほころばせていました。



選手宣誓をする椎名文雄さん



一斉にスタート・どの顔からも気はくが……



走ったあとのプレゼント、袋の中はなにかな

飲みません。しめますベルトと気のゆるみ。